

社会科学学習指導案

平成27年10月〇日（〇曜日）第〇校時（〇：〇～〇：〇）4年〇組 指導者

1 単元名 郷土の発展に尽くした人々

2 考察

(1)教材観

①学習内容：学習指導要領上の位置付け

- ・第3学年及び第4学年 内容(5)ウ
- ・地域の発展に尽くした先人の具体的事例

②主な伸ばしたい資質・能力

- ・地域の郷土資源・文化遺産や地域の発展に尽くした先人の働きについての関心
- ・地域の郷土資源や文化遺産を進んで調べたり、地域のよりよい発展を考えようとしたりする意欲
- ・地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、先人の苦心など、地域の特色について考える力
- ・地域の郷土資源・文化遺産に対して、自分にできることを考える力
- ・地域のよさや自分が地域のためにできることを表現する力
- ・地域の特色について、地域の郷土資源・文化遺産や地域の発展に尽くした先人の具体的事例について、必要な情報を集め、読み取る技能
- ・地域の発展に尽くした先人の働きや苦心、それらと人々の生活の向上との関わりについての理解
- ・地域の特色やよさの理解

③そのために必要な指導・学習活動

- ・郷土資源・文化遺産に触れることで持った児童の興味・関心から、地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心の理解を基に地域社会に対する誇りと愛情を育てることを目指すための単元を貫く課題を設定する。
- ・もっと調べたいことを出し合う中から、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた学びの視点を設定し、地域の特色やよさを具体化して、学習を進める。
- ・追究する過程で、地域の「もの・こと・ひと」の視点に沿って、郷土資源や文化遺産を調べ、地域の特色に気付く。
- ・グループで、調べて気付いた事実を再構成し、地域の特色の理解を図る。
- ・地域の「もの・こと・ひと」の視点に沿って、まとめたことを基に、先人や地域の人々の思いや自分と地域の関わりについて考える。
- ・地域のよさや自分が地域のためにできることを発信する。

④今後の学習の活用

- ・「わたしたちの住む群馬県」の学習において、群馬県全体の広がりや地形や交通の様子、特色ある地域の産業や人々の生活等を理解し、県の特徴を考える際に、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた学びの視点を設定した単元を構想し、活用していく。

(2)本単元に関わる生徒の実態及び指導方針（男子〇名、女子〇名、計〇名）

①既習の学習内容

- ・第3学年の「学校のまわり」の学習で、富岡製糸場の位置は理解している。

- ・第3学年の「市のようす」の学習で、地域の様子は場所によって違いがあることを理解している。

②本単元に関わる実態及び指導方針

- ・アンケートの富岡市のよいところに関する質問に対しては、「よいところはない」と「無回答を合わせると10%ほどで、郷土に対して愛情を持っていない児童がいる。単元の目標を達成するために、単元を貫く課題を設定するとともに、地域の特色やよさを理解するために、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた学びの視点を設定し、視点に沿った学習過程を構成する。
- ・児童は、ゴミはどこへ行くのかや水はどこから来るかといった、自分の生活と毎日関わることの学習においては、関心はとても高い。しかし、本単元のような自分の生活との直接的なつながりをつかみにくい学習になると、関心は低くなる。そこで、児童が興味関心を持ち、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた学びの視点を設定しやすくなるように、つかむ過程で、富岡製糸場の見学を取り入れる。
- ・アンケートの結果から、富岡市について「知らない」、「あまり知らない」と答えた児童が25%もいる。地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心に気付くために、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てて、富岡製糸場を調べる学習を設定する。また、友達とお互いに調べたことを共有し、気付いた事実を再構成するために、協働的な学びができるような学習形態の工夫をする。

3 研究との関わり

小学校学習指導要領解説社会編では、「現在及び過去の地域の人々の工夫や努力によって生み出された、地域社会の特色やよさへの理解に基づいて、自分たちの住んでいる地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにする」とある。また、はばたく群馬の指導プランでは、伸ばしたい資質・能力として、「人々の工夫や努力を考え、地域のまちづくりを理解すること」や、「地域のために、自分にできることを考える」を掲げている。平成27年度学校教育の指針における指導の重点「郷土資源、文化遺産」では、「県内の郷土資源や文化遺産を、郷土愛をはぐくむ指導等に積極的に役立てること」が示されている。

本単元において、富岡製糸場と地域の発展、それに関わる人々について興味を持ち、学びの視点を設定して調べ学習を行う。そして、地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、地域の発展に尽くした先人の働きに気付いた上で、地域の特色の理解を図り、先人や地域の人々の思いや自分と地域との関わりについて考え、地域のよさを発信することで、地域社会の一員としての自覚を持ち、地域社会に対する誇りと愛情を持つ。このような地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた学びの視点を設定した単元を構想し、活用することは、学習指導要領及び県の重点課題に関連しており、意味のあることだと考える。

4 単元の目標

地域の郷土資源や文化遺産に興味を持ち、学びの視点を設定して調べることを通して、地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、地域の発展に尽くした先人の働きに気づき、地域の特色の理解を図り、先人や地域の人々の思いや自分と地域の関わりについて考え、地域社会のよさを発信することで、地域の一員としての自覚を持ち、地域社会に対する誇りと愛情を持つことができる。

5 指導計画（全13時間予定）

評価規準	社会的事象への関心・意欲・態度	郷土資源や文化遺産に関心を持ち、意欲的に調べ、先人や地域の人々の思いや自分と地域との関わりを考えようとしている。					
	社会的な思考・判断・表現	郷土資源や文化遺産について課題を見出して調べ、先人や地域の人々の思いや自分と地域との関わりについて考えるとともに、地域社会のよさを発信している。					
	観察・資料活用の技能	郷土資源や文化遺産を調べ、必要な情報を集め、適切に読み取ったり、まとめたりしている。					
	社会的事象についての知識・理解	地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、先人の働きや苦心など、地域の特色について理解している。					
過程	時	主な学習活動	評価				
			◇評価項目（評価方法）	関	思	技	知
つかむ	1	○富岡製糸場を見学し、学習に興味関心を持つ。	◇学習に興味を持つことができる。 （観察）	○			
	1	○気付いたことや疑問を出し合い、もっと調べたいことを考える。 ○単元を貫く課題を設定する。	◇気付いたことや疑問に思ったことから、単元を貫く課題を設定することができる。（ワークシート）	○			
	1	○もっと調べたいことを分類し、学びの視点を設定する。 ○学習計画の見通しを持つ。	◇学びの視点を明らかにすることができる。 （ワークシート）		○		
追究する	3	○学びの視点に沿って、資料を使い、富岡製糸場について調べる。 ○調べたことをワークシートに整理する。	◇調べたことを整理することができる。 （ワークシート）				○
	1	○調べたことを確認し合い、事実気付く。	◇調べたことを確認し合い、「もの・こと・ひと」の視点から富岡製糸場の事実に気付くことができる。 （観察・ワークシート）				○
考え・まとめる	1	○「もの・こと・ひと」のそれぞれの視点で交流できる新たなグループで、気付いたことを再構成する。	◇「もの・こと・ひと」の視点で調べたことを交流し合い、新たな事実に気付くことができる。 （観察・ワークシート）				○
	3	○富岡製糸場を未来に残すために、自分にできることを考える。 ○「もの・こと・ひと」の視点に沿ってまとめたことと、富岡製糸場を未来に残すために自分にできることを、各自でリーフレットにまとめる。	◇富岡製糸場を未来に残すために、自分にできることを考えることができる。 （ワークシート） ◇分かったことや考えたことを基に、リーフレットにまとめることができる。 （リーフレット）		○		○
	2	○リーフレットを使用して、学習したことを発表する。	◇調べてまとめたことを発表することができる。 （観察）		○		

6 本時の展開（4・5・6／13 グループ追究型）

(1) ねらい

学びの視点に沿って、資料から情報を収集し、整理することができる。

(2) 準備

（教師）ワークシート、資料

（児童）副読本、筆記用具

(3) 展開

学習活動 （・予想される児童の反応）	時間	指導上の留意点及び支援・評価 （◎努力を要する児童への支援 ◇評価）
1 前時の学習を振り返り、本時の学習課題を確認する。 ・しっかりと調べるぞ。 ・みんなと協力してがんばろう。	10分	◎単元を貫く学習課題を達成するために、大切な時間であることを伝える。
本時の課題：富岡製糸場の秘密を探ろう。		
2 調べ学習を行うグループに分かれる。 (1)「もの」、「こと」、「ひと」の視点ごとのグループに分かれる。	35分	◎児童の実態を考慮し、事前に行っておいたグループ分けを発表する。
3 課題を追究する。 (1)富岡製糸場について、「もの」、「こと」、「ひと」の視点から調べたことを、ワークシートに記録する。 ・富岡製糸場は、木骨レンガ造りという方法で作られた。（「もの」） ・富岡製糸場は、生糸の生産のお手本の工場として作られた。（「こと」） ・尾高惇忠という人が、建設の中心となってやっていた。（「ひと」） など	45分 35分	◎調べていくうちに、知りたいことから離れていかないように、必要に応じて確認する。 ◎調べたことを整理するために、ワークシートを準備する。 ◎進行状況をグループで共有し、意欲的に学習に取り組めるように、3時間扱いの1時間ごとの終わりに、お互いに途中経過を確認する時間をとる。 ◎資料から、なかなか選べない児童が自信を持って活動できるように、仕上げのリーフレットに書く内容を考えながら調べるように助言する。 ◇調べたことを整理することができる。 （ワークシート）【観察・資料活用の技能】
4 本時の学習のまとめをする。 (1)ワークシートを読み返し、自分が調べてわかったことを確認する。 (2)次時の予告を聞く。 ・みんなはどんなことが分かったのかな。	10分	◎調べたことを明確にするために、自分の知りたいことの答えがどれになるのか確認し、その部分に印をつけるように助言する。 ◎次時は、調べて分かったことをグループで確認し合うことを伝える。

7 板書計画

10 / ○

今日のめあて
富岡せい糸場のひみつをさぐろう。

「(自分の調べたいひみつ)」
(わかったこと)

例 ・富岡せい糸場のレンガは、フランス積みで積まれている。(○○ P.△)
 ・富岡せい糸場は品しつのよい生糸のつくり方の見本をしめすためにつくられた。(△△)
 ・ポール・ブリュナという人が、フランス式の工場をつくった。(□□ P.△)

など

パンフレット 1	パンフレット 2	画像 1 西藪倉庫	画像 2 富岡製糸場 全景	画像 3 ポール・ブリュナ 尾高惇忠
----------	----------	--------------	---------------------	--------------------------